

〈ランチョンセミナー4〉

場所:京王プラザホテル第1会場(5F エミネンスホール)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿2丁目2-1 TEL03-3344-0111(代表)

日時:2021年12月22日(水)11:55~12:45 *本セミナーは整理券制です。

日本発の心血管指標API,AVI
~新たな医療技術開発と未病改善の戦略~

〈座長〉

東京医科大学病院循環器内科

教授 富山 博史 先生

〈演者〉

AVIと認知機能の関連:多施設横断および追跡研究

東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

特任研究員 岡本 将輝 先生

カフオシロメトリック法による、新規血管指標(API・AVI)を健康長寿の実現に活用する

横浜市立大学附属病院循環器・腎臓・高血圧内科学

准教授 石上 友章 先生

神奈川県「未病」政策

神奈川県副知事 首藤 健治 先生

ランチョンセミナーは整理券制となります。

■配布日時

12月22日(水)8:00~11:30(※無くなり次第、終了)

■配布場所:京王プラザホテル 本館 4F「花」展示会場内※大会参加証をご提示ください。

※セミナー当日分の整理券のみお一人1枚配布いたします。

※飲食数には限りがございますので、予めご了承ください。

※会場には整理券をお持ちの方から優先的にご入場いただけます。

※整理券は、該当セミナー開始5分後に無効となります。

共催:第80回日本公衆衛生学会総会

株式会社志成データム/亞洲光学股份有限公司

＜ランチョンセミナー4＞ 日本発の心血管指標API, AVI～新たな医療技術開発と未病改善の戦略～

日時:12月22日(水) 11:55～12:45

会場:第1会場(京王プラザホテル5F エミネンスホール)

座長:富山博史先生(東京医科大学病院循環器内科教授)

演題① AVIと認知機能の関連:多施設横断および追跡研究

岡本 将輝 先生

(東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野、Massachusetts General Hospital、株式会社トウキョウアナリティカ)

【目的】本研究の目的は、上腕片側からオシロメトリック法によって測定した血管機能が、その後の認知機能、およびその低下に有意な影響を与えるかどうかを明らかにすることである。

【方法】3つの介護老人保健施設の利用者を対象として、カルテ記録に基づく既往歴・内服歴の確認の上、アンケートおよびインタビュー調査、認知機能検査(MMSE)、血管機能検査(AVI)を行った。解析対象は102名で、ベースライン調査から1.5年後にフォローアップとして再度MMSE測定を行った。統計解析にはOLSによる線形回帰モデルを用いて交絡因子を調整し、AVIとMMSE、およびMMSE変化との関連を検討した。また、線形混合効果モデルによりデータの階層構造を考慮した関連も併せて調査した。

【結果】ベースライン時の102名のうち、74.5%(n=76)が女性で、平均年齢は81.9歳(SD=7.9)であった。平均AVIは27.7、平均MMSEスコアは21.3、フォローアップ時の平均MMSEスコアは18.3であった。潜在的な交絡因子を調整した上で、血管機能が低いことは認知機能が低いことと有意に関連していた($\beta=-0.148$; 95%CI: -0.276～-0.020)。線形混合効果モデルでも同様に、AVIとMMSEスコアの関連は有意であった。また、ベースライン時の血管機能低下が追跡調査時の認知機能低下とも有意に関連することが示され、ベースライン時のAVI値が10単位増加すると、1.5年後のMMSEスコアが2.6～2.8ポイント低下する関連を認めた。

【結論】本研究により、日本人高齢者集団においてAVI値として表される血管機能の低下が、認知機能の低下と関連していることが示唆された。これらの知見は、認知機能低下予防策の立案に資する科学的エビデンスとなり得る。

演題② カフオシロメトリック法による、新規血管指標(API・AVI)を健康長寿の実現に活用する

石上 友章 先生

(公立大学法人横浜市立大学医学部循環器・腎臓・高血圧内科学)

我々は、これまでに新規自動血圧計PASESA AV-1500(志成データム)を使って、新規血管指標(API・AVI)の意義を検討してきた。これまでの検討から、APIとAVIは心血管疾患予測のバイオマーカーとしての必要条件である以下の6点を示すことができていると考えている。簡便で低侵襲であること低コストであること、病態と関連すること、精度および再現性に優れていること、標準化できること、予後予測能を有することを満たす可能性を示すことができた。カフオシロメトリック法は、家庭用・医療用の自動血圧計に応用され、世界的に普及している。非侵襲性が高く、繰り返し測定が可能で、きわめて汎用性が高い。カフオシロメトリック法を応用した新規血管指標(API・AVI)を広く活用することで、生活習慣病に伴う動脈硬化性変化を、捕捉することが可能になる。こうした特長を活かして、国民の健康寿命延伸に寄与するべく、地域包括ケアを始めとする医療に加え、看護・介護・かかりつけ薬局での活用を考えてみたい。

演題③ 神奈川県「未病」政策

首藤 健治 先生(神奈川県副知事)

人生100年時代が到来し、健康に対する価値観が大きく変化してきている。併せて、医療・ヘルスケア領域において、圧倒的な勢いで技術革新が進んでおり、社会全体が大きく変革しようとしている一方で、我が国の医療制度は、医療費自体をコストとみなすいわゆる「コストモデル」をベースとして構築されているが、価値観の変化や技術革新を受け止め積極的にサービスを享受したいと思わせる「バリューモデル」を構築し、連携させることが必要である。神奈川県では「未病」というコンセプトを提唱し社会システム改革に取り組んでいる。未病コンセプトにおいて重要なポイントは、健康を自分事化することである。単に健康であることを最上位概念とするのではなく、将来(老後)自分は何をしていきたいか、そのために自分の体はどのようにあるべきかを主軸に捉えている。そのような自己実現を支援するためには、行動変容により改善する様々な介入、精緻な未来予測、それを支える社会システムが必要となってくる。政府に対しても「新たな健康投資」や「共通の評価軸(未病指標)による社会システム間連鎖」などを提唱している。そのような改革プロセスにおいて、求められるエビデンスも変わってきている。これまで提供者サイドの視点で構築されてきているいわゆるマスエビデンスも個別化・パーソナル化が求められる。様々な介入モデルがあなた個人にとって効果をもたらしているのか?あなたの未来の健康(未来予測)に対して効果があるのかをベースとした社会改革等も必要になる。歴史的にみても圧倒的な勢いで進んでいる技術発展を更に加速させ、それを受け止める社会システム改革に対する継続的な取り組みを進めていく必要がある。



共催:第80回日本公衆衛生学会総会
株式会社志成データム/亞洲光学股份有限公司